

2024 年度 日本緑化工学会賞 講評

日本緑化工学会 学会賞選考委員長 岩崎 寛

今年度の選考では、学会ホームページ、コミュニティレター、green-if などを通じて、受賞候補者の推薦を依頼し、本年 6 月 6 日まで推薦を受け付けました（当初 5 月 16 日締め切りでしたが、推薦者が少なかったため、延長）。

推薦された候補者について学会賞選考委員会で慎重な審議を行い、本年は研究奨励賞 1 名、功績賞 2 名に授与することとしました。

受賞者および受賞理由は以下のとおりです。

【研究奨励賞】

受賞者：梅原瑞幾氏（千葉大学大学院看護学研究院特任助教）

題目：介護現場における緑化および緑との関わりによる勤務者のストレスケアに関する研究

受賞理由：梅原氏はストレスが高い対人援助職である介護職に着目し、介護現場における緑化や緑との関わりが勤務者のストレス軽減やワーク・エンゲイジメントに有効であることなどを明らかにしました。これらの研究は医療福祉分野における緑化や緑の活用に対し、有用な知見を与えるものであると評価できます。

また、これらの成果は、筆頭著者として日本緑化工学会に論文として 2 報、技術報告として 1 報掲載されていること、さらに 2022 年 ICLEE 大会では優秀賞を、2023 年緑化工学会大会では優秀ポスター賞（技術報告部門）を受賞していることから、研究奨励賞の授与を決定いたしました。

【功績賞】

受賞者：山中典和氏（鳥取大学名誉教授）

題目：乾燥地緑化植物の生理生態研究の発展と普及に対する功績

受賞理由：山中氏は長年にわたり乾燥地の重要課題である「砂漠化した土地の生態系修復」をテーマとして、風食対策、水食対策、塩類集積対策について主に東アジアや中央アジアの乾燥地を中心として緑化植物の生理生態研究に取り組んでこられました。その成果は日本緑化工学会誌に 37 編、LEE に 6 編に掲載され、平成 17 年には日本緑化工学会賞（論文賞）も受賞されています。

また、学会活動においても評議員、理事等の多数の要職を務められ、特に乾燥地緑化研究部会長として、我が国の乾燥地緑化研究の発展、普及に貢献されました。

以上の功績から、山中氏へ功績賞の授与を決定いたしました。

【功績賞】柴田昌三氏（京都大学名誉教授／兵庫県立淡路景観園芸学校）

題目：タケ・ササ類をはじめとする在来植物を利用した緑化技術の開発と普及に関する功績

受賞理由：柴田氏は長年にわたり緑化の研究に尽力され、特に緑化植物としてのタケ・ササ類の特性の解明と利用、都市近郊林や竹林の管理、地域の在来植物種を利用した緑化技術の開発、都市緑地の生態系サービス評価などに注力されてきました。その研究成果は日本緑化工学会誌に 30 編以上、LEE 誌に 10 編以上の論文・技術報告として掲載され、国内外に精力的に研究成果を発信されました。

また、学会活動においては会長を 2 期、さらに ICLEE の会長も務められ、本学会の発展に多大な貢献をされました。

以上の功績から、柴田氏へ功績賞の授与を決定いたしました。